

個人消費に明るさ? ~ 米小売売上

2011年5月9日(月)

ここに来て、どうもぱっとしない感のある米景気動向。
今週は12日に米小売売上高(4月分)の発表が控えています。
米国は個人消費がGDPの約7割を占める消費大国
(日本は5割台です)
米景気の動向のカギを握る個人消費動向をまともにあらわす
小売売上高は
重要な指標となっています。

前回3月の小売売上は
前月比+0.4%という結果。
9ヶ月連続でのプラスとなり
米景気の回復傾向を裏付けたものの
2月分の+1.1%(速報時の+1.0%から上方修正)から
かなり伸びが鈍化しており
景気回復の勢いが陰っていることを印象づけました。

もっとも、これは自動車及び同部品の販売が落ち込んだことが
大きく寄与しています。
部門別の売上を見ると
自動車及び同部門の売上高は
前月比 - 1.7%と2月の+1.0%から急減しています。
月初に出る新車販売台数が年率換算で1306万台と
1300万台の大台を二ヶ月連続で維持するなかなかの数字だったものの
2月の1338万台に比べては低かったこと、
新車販売の数字の中で、小売売上に含まれない法人需要が強めだったこと、
販売額の低い小型車に人気が集まっていることなどが
売上高を抑えたようです。

このうち小型車需要の背景にあるのが
ガソリン価格の上昇です。
米エネルギー省エネルギー情報局(EIA)による
ガソリン小売価格のデータ(全米、全グレード)によると
ガソリンの小売価格は2月の1ガロンあたり3.264ドルに対して
3月は3.615ドルと1割以上値を上げており
上昇傾向が顕著となっています。
昨年11月には3ドルを割り込んでいたことを考えると
ここに来ての上昇が
燃費の悪いピックアップトラックやSUVなどから
小型車に需要をシフトさせている状況が伺えます。

ちなみに、
一部の大都市圏を除いて
車がないと生活が成り立たない米国では
ガソリンの販売量は価格変化にあまり左右されない
(価格弾力性が低い)ため
ガソリン価格上昇は、
小売売上にとっては短期的には押し上げ要因です。
ただ、その分他の消費は確実に押し下げられる上
将来的な上昇傾向が続くとの観測が
消費マインドを冷やしてしまうため、
あまりいい傾向ではありません。

4月もガソリンは上昇を続けており
先ほどのデータでは3.852と
原油価格が1バレル150ドルに迫った2008年夏以来の高水準となっており
小売売上全体にとっては
押し上げ効果が働きそうです。

いまのところ4月の小売売上の予想は+0.8%と
3月から増加率が改善しますが
この予想数字にも、ガソリンの状況が寄与していそうです。
ただ、ガソリン価格の上昇分を考えると
小売売上増 = 景気がいいというわけにはいかないといったところです。

自動車販売に関しては
4月の新車販売台数が前年同月比+17.9%、
年率換算1317万台と
3月の数字よりも強く、1300万の大台も維持と
好調をキープしており
こちらも小売売上の押し上げ要因であり
+0.8%という予想程度の数字はこれだけでも期待できそうです。

この上に、更に好材料があります。
5日に発表された
米主要小売25社の既存店売上高です。
4月の同売上高は
前年同月比+8.9%と、
事前予想の8.2%を越える数字となりました。
イースター商戦がなかなか好調だったようです。
アパレル大手ギャップや
百貨店メーシーズなどが予想以上の売上を上げていることから
自動車、ガソリンなど以外でも
消費は好調となっている可能性があります。
予想を超えて、1%以上の数字が出てくるようだ
相場にポジティブなサプライズを与えることも期待できそうです。

発表は12日午後9時半です。

株式会社GCIキャピタルは信頼できる情報をもとに本資料を作成していますが、正確性・完全性について株式会社GCI総研が責任を負いません。
本資料は、情報提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資決定にあたっては、投資家ご自身の判断でなされまよう願いたします。
本資料に掲載されている情報の著作権は株式会社GCIキャピタルに帰属し、本資料に掲載されている情報を株式会社GCI総研の許可なしに転用、複製、複写することはできません。
© 2011 GCI Capital, Inc. All Rights Reserved.